

産婦人科領域の感染症に対する cefetamet pivoxil の投与効果

千村 哲朗・森崎 伸之

山形大学医学部産婦人科教室*

New oral cephem 剤である cefetamet pivoxil (CEMT-PI) の産婦人科領域感染症 5 例（子宮内膜炎 2 例，産褥子宮内感染 1 例，子宮付属器炎 2 例）を対象とし，臨床効果を検討し以下の成績を得た。

- 1) CEMT-PI 250 mg～500 mg を 1 日 2 回朝夕投与し，投与期間は 7～8 日であった。
- 2) 臨床効果は著効 1 例，有効 4 例であった。
- 3) 分離菌は 6 株が検出され，菌消失 4 株であった。
- 4) 本剤投与時の臨床検査値の異常および自他覚的副作用の出現は認められなかった。

Key words : Cefetamet pivoxil, CEMT-PI, 産婦人科, 感染症

New oral cephem 剤として開発された cefetamet pivoxil (CEMT-PI) は 3 位鎖に methyl 基を有し，7 位鎖に methoxyimino 基および aminothiazolyl 基を有する新しい経口剤である。本剤は，グラム陽性菌 (*Streptococcus pneumoniae*, *Streptococcus pyogenes*, *Streptococcus agalactiae*,) やグラム陰性菌 (*Escherichia coli*, *Klebsiella pneumoniae*, *Klebsiella oxytoca*, *Proteus mirabilis*, *Branhamella catarrhalis*) などに優

れた抗菌力を示し，従来の oral cephem 剤に比較し *Haemophilus influenzae*, *Providencia rettgeri*, *Proteus vulgaris*, *Pseudomonas cepacia* などに対し抗菌力の増強が認められる特徴を有する¹⁾。臨床第 2 相試験の成績では，内科・泌尿器科での臨床効果はそれぞれ 84%，74% の有効率が報告¹⁾され，分離菌別細菌学的効果で 79% の菌陰性化率が認められ，副作用の出現率 3.6%，臨床検査値異常 5.4% と報告¹⁾されてい

Table 1. Clinical efficacy of cefetamet pivoxil treatment

Case No.	Age	Diagnosis	Organisms (before after)	MIC 10 ⁶ (μg/ml)	Cefetamet pivoxil			Bacteriological effect	Clinical efficacy	Side effects
					daily dose (g×times)	duration (days)	total dose (g)			
1	20	endometritis	<i>Actinomyces israelii</i> (+)	1.56	0.5×2	7	7	replaced	good	(-)
			<i>Enterococcus faecalis</i> (+)	>100						
2	25	puerperal intrauterine infection	<i>Escherichia coli</i> (#)	0.2	0.25×2	7	3.5	decreased	good	(-)
			<i>Bacteroides distasonis</i> (#)	12.5						
			<i>Escherichia coli</i> (+)	0.2						
3	26	adnexitis	(-)	-	0.5×2	7	7	unknown	good	(-)
			(-)	-						
4	33	endometritis	<i>Enterobacter aerogenes</i> (#)	0.78	0.25×2	7	3	eradicated	good	(-)
			(-)	-						
5	27	adnexitis	<i>Escherichia coli</i> (#)	0.39	0.25×2	8	3.25	eradicated	excellent	(-)
			<i>Peptostreptococcus asaccharolyticus</i> (+)	0.2						
			(-)	-						

*〒990-23 山形市飯田西 2 丁目 2-2

Table 2. Laboratory findings before and after treatment with cefetamet pivoxil

Case No.		RBC ($\times 10^4$)	WBC (/mm ³)	Hb (g/dl)	Ht (%)	Platelets ($\times 10^4$)	GOT (IU)	GPT (IU)	BUN (mg/dl)	S-Creatinine (mg/dl)
1	B	362	5300	10.5	31.3	28.5	14	5	14	0.7
	A	397	6400	11.6	34.3	31.1	13	8	13	0.9
2	B	425	7800	11.8	36.5	28.6	15	8	14	0.8
	A	423	5100	11.9	36.3	18.7	11	7	11	0.8
3	B	411	3300	13.1	37.8	21.2	15	9	13	0.6
	A	422	4700	13.4	38.7	16.7	16	11	18	0.7
4	B	390	7200	11.8	34.8	35.7	21	25	16	0.6
	A	391	5700	11.8	35.2	33.4	22	24	17	0.6
5	B	408	4300	11.9	35.2	28.0	14	13	14	0.7
	A	407	6500	11.6	35.4	30.4	12	11	12	0.6

B: before A: after

る。

今回、我々も本剤の臨床効果について検討する機会を得たので報告したい。昭和63年6月より当大学産婦人科を受診した患者中より、産婦人科領域の感染症(子宮内感染・子宮付属器炎)の5症例を対象とした。対象患者は軽症～中等症の感染症であり除外規定に該当する症例は避けた。投与方法はCEMT-PI (1錠250mg)の250mg～500mgを1日2回朝夕投与とした。投与期間は7～8日であった。併用薬剤および処置は原則として避けた。臨床所見・臨床検査は投与前後に必要項目についてチェックし、細菌学的検査も可能な限り実施した。また自他覚的副作用の有無についても検討した。効果判定は臨床効果では著効、有効、無効、不明の4段階により判定した。

CEMT-PI投与症例の概要をTable 1に示す。子宮内膜炎2例、産褥子宮内感染1例、子宮付属器炎2例に対する臨床効果は有効4例、著効1例であった。投与量別効果では250mg \times 2/日(総量3～3.5g)投与群3例で有効2例、著効1例を示した。500mg \times 2/日(総量7g)投与群2例では有効2例であった。分離菌は*E. coli* (2株), *Actinomyces israelii* (1株), *Bacteroides distasonis* (1株), *Enterobacter aerogenes* (1株), *Peptostreptococcus asaccharolyticus* (1株)が投与前に検出された。投与後では菌消失4株、減少1株、菌交代1株であり、症例No.3は菌検出不能につき不明である。本剤投与時の臨床検査値の変動をTable 2に示すが、異常所見は認められない。また自他覚的副作用の出現も認められなかった。

症例1 (Fig.1): 昭和63年6月10日人工妊娠中絶術施行。6月12日より発熱あり、下腹部痛出現し子宮内感染の診断で当院に入院。6月20日より3日間cefminox (CMNX) 4g/日投与するも無効。6月24

日よりCEMT-PI 500mg \times 2/日投与開始する。CRP値と自覚症状(下腹部痛)、内診所見が改善したことにより本剤は有効と判定した。分離菌は*A. israelii*が検出されたが、7月1日の分離菌で*Enterococcus faecalis*に菌交代を認めた。

症例5 (Fig.2): 昭和63年7月初め頃より発熱あり、下腹部痛が出現してきたので8月11日当科受診し、右付属器炎の診断にて入院。8月11日よりCEMT-PI 250mg \times 2/日の8日間投与にて臨床症状、下腹部痛、発熱など改善し、CRP値も7日後に陰性化した。子宮内分泌物の細菌検査で*E. coli*, *P. asaccharolyticus*が検出されたが、陰性化している。臨床効果は著効と判定した。

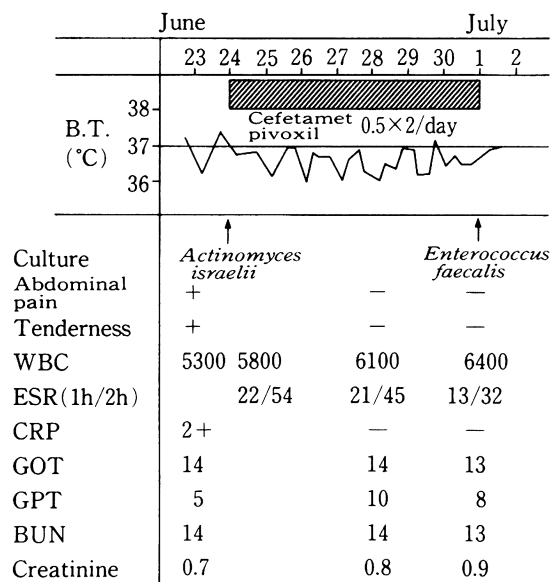


Fig. 1. Case No. 1 20y.o. endometritis

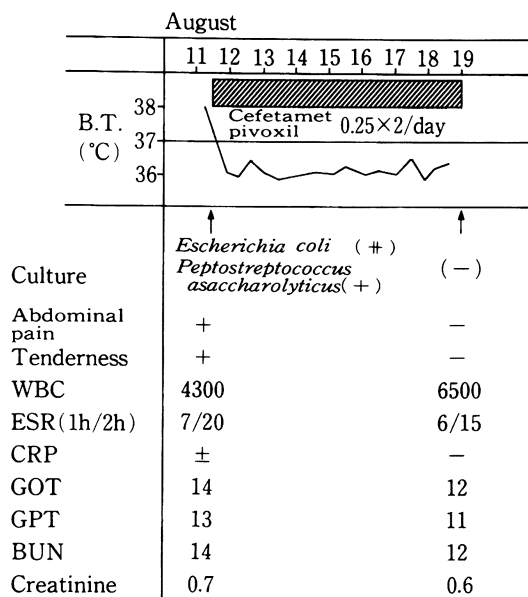


Fig. 2. Case No.5 27y.o. adnexitis

軽症から中等度の症例に対し外来・入院での投与が多い。近年、産婦人科領域での感染症における起炎菌の変遷はグラム陰性桿菌や嫌気性菌の出現度を高くしているが、グラム陽性球菌の検出率も高い。こうした背景からして、本剤の臨床効果は全国研究会の成績で有効率 166/181 (92%)、菌消失率 107/127 (84%) と報告¹⁾されている。また分離菌別細菌学的効果でグラム陽性菌 84%、グラム陰性菌 88%、嫌気性菌 98% の高い消失効果が認められる¹⁾。今回の我々の成績は全国研究会の上記成績の一部であるが、5 例の内性器感染症に対する臨床効果で全例に有効であった。特に前投薬として CMNX に無効であった子宮内膜炎 (症例 1) を含めた 5 例に有効であった。副作用に関する報告¹⁾では 48/1351 (3.6%) で、その内容は発疹・胃部不快感・下痢・嘔気などが主症状であり、軽～中等度にとどまっている。今回の検討では臨床検査値の異常も含めて認められなかった。したがって、本剤の有する抗菌スペクトラムおよび抗菌力、性器組織移行¹⁾などからみて、産婦人科領域の感染症に対する高い有用性が期待される。

文 献

- 1) 大石正夫, 小林宏行: 第 36 回日本化学療法学会東日本支部総会, 新薬シンポジウム。Ro 15-8075 (cefetamet pivoxil)。新潟, 1989
- 2) 副島林造: 最近の抗菌薬の開発の現状。Prog Med 9: 1315~1319, 1989

New oral cephem 剤として開発された CEMT-PI は β -lactamase に安定で、グラム陽性・陰性菌に強い抗菌力を有し^{1,2)}、その臨床効果が期待される。従来、産婦人科領域の感染症に対する経口抗菌剤としてはセフェム剤・キノロン剤などが一般に使用されてきたが、

CEFETAMET PIVOXIL IN OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

TETSURO CHIMURA, NOBUYUKI MORISAKI

Department of Obstetrics and Gynecology, School of Medicine, Yamagata University,
2-2-2 Iidenishi, Yamagata-shi 990-23, Japan

We investigated the clinical efficacy and safety of cefetamet pivoxil (CEMT-PI), a new oral cephalosporin, for its use in the tocogynecological field, and obtained the following results.

- 1) CEMT-PI was administered to 5 patients (2 with endometritis, 2 with adnexitis and 1 with purperal intrauterine infection) at a dose of 250mg or 500mg twice a daily for 7~8 days.
- 2) Clinical efficacy was excellent in 1 and good in 4.
- 3) Bacteriologically, 4 of 6 clinically isolated strains were eradicated.
- 4) No side effects or abnormal changes in laboratory test values were observed.